令和６年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　志村第五中　学校

■児童・生徒の学力の状況

〇今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果、国語は全国平均を1.9ポイント、数学は全国平均を4.5ポイント上回り、学力は概ね良好と考えられる。ただし、国語の「情報の取り扱いに関する事項」が全国平均を3.5ポイント下回っている。一方、数学では全項目で全国平均を上回っている。
〇今年度のRSTの結果、本校生徒の偏差値（中学生）は「係り受け解析」49.62、「照応解決」49.26、「同義文判定」49.93、「推論」50.31、「イメージ同定」51.07、「具体例同定（辞書）」51.80、「具体例同定（理数）」49.57である。能力値の平均では、照応解決（-0.13）、同義文判定（-0.08）に課題が見られ、具体例同定（0.25）及びイメージ同定（0.16）は良好である。

■授業革新推進に向けた指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

〇「読み解く力」の育成
　－ 読み解く力を育む授業の流れを定着させる。
〇「話す・聞く・書く・読む」の4技能を向上させる「志五中スタイル」の定着
　－ 志五中スタイル
　　（１）根拠＋<接続詞>＋自分の考え
　　（２）キーワードを意識
〇調査の活用
　－ 全国学力・学習状況調査、RST、hyper-QUの分析を行い、有効に活用する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

〇「板橋区授業スタンダード」、「志五中スタイル」を全教科で実施し、「目標」と「自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の流れを意識した授業や、理解したことを活用して自分で考え、根拠を基に自分の考えを述べる発表をするなどのアウトプットができる目的のある学びを実践する。
〇教科書を使い、基礎的読解力の６つの分類を意識し、読み解く力の向上を図る。
〇GIGAスクール構想に則り、チョーク＆トークから脱却し、生徒が一人一台端末を効果的に活用する授業を実践できるよう授業改善を図る。
〇「少人数による習熟度別授業」、「学力向上専門員」、「夏季休業中の補充教室」等を活用し、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導を行う。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
〇各教科等の授業において、「本時の目標の設定→本時の流れ→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを統一して実施。	〇基礎的読解力の６分類等の明確な視点を意識した授業を実践するため、校内研修会の充実を図る。 〇INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定し、志五中スタイルを全教科で定着させる。	〇各教科で単元配列表を作成し、生徒の既習内容を把握できるように努める。この単元配列表を基に、各教科と総合的な学習との時間との関連性を充実させ、教科横断的な学習を推進する。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
〇学びのエリア研修会を活用し、単元配列表を作成することで、既習内容の把握と教科横断的な学習の向上を図る。 〇部活動体験や小学６年生による授業参観等を実施し、不登校等による不適応を未然防止する。 〇板橋区授業スタンダードの徹底と「読み解く力」の６視点を意識した授業展開、個別最適な学習と協働的な学習の一体化を小学校・中学校で実施する。	〇教育課程の編成、実施、評価、改善を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高める。 〇教科横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育課程を組織的に配列する。 〇学力調査等の結果とデータに基づいて教育課程を編成・実施し、その後に評価と改善を行うPDCAサイクルを確立する。 〇地域と連携し、教育に必要な人材や資源を外部に求める。	〇ミライシード等を効果的に活用し、生徒一人ひとりの考えを取り上げるとともに、班活動等を通じて協働的な学びのツールとする。 〇ICT機器を活用して、生徒の学びを深めるために、GIGAスクール推進支援員等を活用し、研修会を実施して、各教員の指導力向上に努める。